

第843回

定例教育委員会会議録

日 時 平成30年4月27日（金）13：30～

場 所 市役所第1会議室

益田市教育委員会

第843回 教育委員会定例会

招集年月日 平成30年4月27日（金）13時30分～

招集場所 市役所第1会議室

議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

議第12号 益田市社会教育委員の委嘱について【継続議題】

報第20号 教育長職務代理者の指名について

報第21号 益田市教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について

報第22号 益田市文化財保護審議会委員の委嘱について

（追加議案）

議第13号 益田市教育支援委員会委員の任命について

第4 その他

(1) 協議

・平成30年度（平成29年度事業分）益田市教育委員会点検・評価に係る自己評価について

(2) 情報提供

・平成30年度島根県への重点要望議案について
・平成30年度人権・同和問題研修会について
・旧美濃地家住宅の国登録有形文化財（建造物）の登録について
・史跡スクモ塚古墳の発掘調査について
・平成30年5月学校給食献立について

(3) その他

・平成29年度未来を担うひとつくりに係る取組の報告について
・教職員の人事権をめぐる問題に関する検討の進め方について【非公開】

出席者

教育委員会

教 育 長	柳 井 秀 雄
教 育 員 边 隆	渡 野 純
教 育 員 中 桥 道 恵	舟 橋 道 恵
教 育 員 村 上 三恵子	村 上 三恵子

事務局職員

ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
教育総務課長	山 本 裕 士
学校教育課長	武 內 白
文化財課長	木 原 光
匹見分室長	佐々木 厚 造
社会教育課長補佐	松 本 典
人権センター主査	和 田 至
ライキヤア教育コーディネーター	檜 垣 賢
教育総務課長補佐	藤 本 香
教育総務課主任	中 田 織

柳井教育長 それでは、時間が少し早いようですが、全員そろいましたので、これより第843回定例教育委員会を始めさせていただきます。よろしくお願ひします。

まず、皆様方には小中学校の入学式にご臨席賜りましてありがとうございました。それでは、議事のほうに移ります。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 続きまして第2の教育長報告についてお話しさせていただきます。

3日に新しく教職員辞令交付式ということで、新たに益田市に転任をされました先生方が講師を含めて120名いらっしゃいました。

18日には東京オリンピック・パラリンピック自転車誘致推進本部会議がありまして、今、益田市はアイルランドの事前キャンプを誘致しようという考え方で、近いうちにアイルランドと交渉に入る予定としております。2月にもアイルランドから来ていただきまして視察をしていただいております。非常に好感触を持っているということです。あわせて、今年度6月22日から24日まで、全日本自転車競技選手権大会ロードレース競技が益田市であります、今までではU-15、U-17の方を対象としておりましたが、今年はエリートといってオリンピック選手というような方も含めた大会が開催されます。種・北仙道地区で行うということで、益田市町おこしの会が主催ではあります、市民一体となって協力しないとできないものというふうに考えております。

続きまして、21日、益田市保育研究会総会がございましたが、今年度から県の教育委員会の方で島根県幼児教育センターが設立されまして、松江と浜田にセンターが拠点化されました。教育センターでは、各幼稚園または保育所に回って、これから保・幼・小の連携や、これらの接続がスムーズに行われるよう研修を積んでおります。

また昨日、県の都市教育長会、市町村定例会がございました。

第3 議題

○議第12号 益田市社会教育委員の委嘱について【継続議題】

柳井教育長 議第12号益田市社会教育委員の委嘱について事務局よりお願ひします。

大畠推進監 社会教育委員につきまして、3月の定例教育委員会では1名ほど承諾いただけなかったということで継続議題となっており、持ち越しをして申し訳ございませんでした。

5ページに載せております15名の方を選出いたしました。今回の社会教育委員任期2年間につきましては、公民館のあり方についてしっかりとご検討いただきながら、地区振興センターがなくなった後、どのような公民館活動によって地域自治組織の下支えをしながら一緒に活動していくべきなのか検討をしていく考えでございます。

柳井教育長
村上委員

それでは、これについてご意見がございますでしょうか。

今後、この実情を踏まえた答申をしていただくということに当たっては、今益田市が抱えている地区振興センターの廃止の議論ですとか、地域自治組織の運営をしていくというところで、主に関係者の方が中心になって進めていくことになるかと思いますが、受け手側の住民、連合自治会の代表の方などの意見をしっかりと聞いていただく場をその会合の中に持ちながら会を進めていただくことができればと思っております。委員の中には、地区振興センター長を兼ねておられる公民館の館長さん方も入っておりますが、その方々が地区振興センターの代表としての意見も言えるような配慮をしていただきながら、公平な形の中でこの議論を進めていってほしいと思います。

大畠推進監

社会教育委員というあり方は、基本的に一名一名が独立した委員だということで活動することになっております。すなわち合議制ではないという中で検討していくことはかなり難しいところもあるうかというのは考えております。

公民館を回りながらヒアリングをしたり、私たちが設けるヒアリング、それから一人一人の個人の委員としての活動ももちろん踏まえて検討していくということが前提になっております。ただ、今益田市が抱えている自治組織、地区振興センター、公民館の整理の中においては、かなり公民館という言葉、それと自治会という言葉、もろもろが非常にそれぞれの経験に基づいたものだけによる言葉になっているということが現状です。

ですから、今おられる方の意見は、その方が経験されたことに囚われることが多々あろうかと思っておりますので、今回、選任した方々は、専門的な経験をされた方、理論的なこともわかった方を選任しております。本来あるべき社会教育、公民館のベースを持った上で益田市の現状を踏まえて検討していくというように考えております。まずは過去に囚われるのではなく、本来公民館が持っていたあり方の機能、それから本来社会教育が担うべき機能ということをベースにした上で、今の実情を踏まえて検討していきたいと思っております。

渡辺委員

こうした公民館のあり方という形の中で、いろいろ論議しながら計画を作っていくわけですが、最初は、地域住民が集って一生懸命に活動していく中で地域が変わってきたというような先進事例等を聞いてもらい

ながら、今までの経験に基づいて議論するのではなくて、新しい形の中で皆さんと議論していただきたいと思います。自分の地域を見る時に一步外から見てみる、自分たちが支援していく地域をどういう目で見ていくのか踏まえながら議論していただけすると作った計画が先々活きてくるのではないかと思います。

大畠推進監

今回、委員のほかにアドバイザーということで、全国の公民館の組織の中心になっている東京大学の牧野篤先生、それからもう一人、社会教育をNPOとして考えてきたNPO教育支援協会の吉田博彦さん、この方々がアドバイザーになっていただけましたことになりました。5月1日は吉田博彦さんに全国の事例を踏まえて、そもそも公民館はこれからどこに向かっていくのかという話をさせていただき、議論をすることからスタートしようと思っています。牧野先生が来られた折には全国の先進的な事例をお話ししていただきながら、益田の中の良さを再発見したり、それから益田の足りないところ、目指すべきところも示唆していただきながら委員さんに検討していただこうと思っております。

舟橋委員

再任が6名、それから新規の方がたくさんおられますので、また新たな風が吹いてくるかなとは思いますが、再任が長くなり過ぎる可能性というのはないですか。

大畠推進監

長年積み上げてきたことをしっかりとご理解いただきながら、そのベースに立った上で次のことを検討していくということでは必要だろうと思っています。この度の委員の中では、最長が3期目ということですので、そこまでの長い方はおられないというように考えておりますが、再任させていただいた方は意欲的に会をされた方、それから積極的に研修に行かれた方、それから積極的に地域や公民館に出向いていかれた方も再任させていただきました。全体としては地元のことを理解しようと引っ張っていかれる方に、専門的知識のある方を混ぜた人選と再任をさせていただきました。

柳井教育長

それではよろしいでしょうか。

この委員につきまして、ご承認いただける方は挙手をお願いします。

教育委員

=全員承認=

○報第20号 教育長職務代理者の指名について

柳井教育長

それでは続きまして、報第20号教育長職務代理者の指名についてです。

これにつきましては先般の委員会の中で渡辺委員にお願いをするということで話がありました。今日指名書をお渡しさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

渡辺委員

よろしくお願ひいたします。

柳井教育長 それではこれについてよろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

○報第21号 益田市教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について

柳井教育長 続きまして、報第21号益田市教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について事務局よりお願ひします。

山本課長 法律によって教育委員会の事務事業の点検評価というものが定められておりますが、毎年、教育委員会が自己評価をしたものを持ち外部の方に点検評価をしていただくこととなっております。

評価をいただく委員について3名の方が任期満了となりましたので、2名の方については継続、1名の方については新たに委嘱させていただきましたので報告をさせていただきます。

柳井教育長 これについてはよろしいでしょうか。

舟橋委員 西村さんは新任、再任のどちらですか。

山本課長 西村さんは任期が満了しておりませんので継続となります。

柳井教育長 これはPTA連合会長が替わっても西村さんが継続ということですか。

山本課長 西村さんには、一般の目というのも必要ではないかということで入っていただいております。PTA連合会の会長というのは、委嘱した時にたまたまそうであったからです、任期中は継続していただきます。

柳井教育長 それではよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○報第22号 益田市文化財保護審議会委員の委嘱について

柳井教育長 続きまして、報第22号益田市文化財保護審議会委員の委嘱についてお願ひします。

木原課長 審議委員7名のうち3名の委員がこの3月31日をもって退任をするという意向が示されました。それを受けまして、新たにこの名簿の下の河田委員、田代委員、大森委員の3人の方を新たに委員として委嘱をしましたのでご報告をいたします。

柳井教育長 これについてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○議第13号 益田市教育支援委員会委員の任命について

柳井教育長 それでは、追加議題としまして、議第13号益田市教育支援委員会委員の任命について事務局よりお願ひします。

武内課長 益田市教育支援委員会委員は、教育上特別な支援を要する幼児、児童及び生徒の適切な就学前許可を検討するため、それから就学後の教育の充実を図るために置くものです。このたび任期が参りましたので、新た

に16名の委員を候補として挙げさせていただきました。そのうち5名が新規でございます。医療関係者、教育関係者、知識経験者の中で選んでいるところでございます。

渡辺委員

武内課長

主にどのような時に委員は入られるのですか。

児童等が小学校入学前、就学後においても特別の配慮が要る子供に対してどこが学校として適切かということ、通常のクラスなのか、特別支援学級なのか、または養護学校なのかということ等を、学校や就学前施設から情報を得ながら就学先を決めるために委員会を行っております。今年度予定では年7回の開催計画をしております。

柳井教育長

武内課長

舟橋委員

武内課長

以前の就学指導委員会というふうに捉えてよろしいでしょうか。

はい。

年7回というのは、大体どういう時でしょうか。

新たに小学校に入学される子どもについて、保育所、幼稚園、それから子育て支援課の方から、特別な支援が必要ではないかという情報が入ってきます。この子どもたちの入学先について、冬までには決定しておかないと教室の開設等が間に合わないこともあります。ですので、おおよそ夏頃から新年度の体制に間に合うように検討を重ねてまいります。

柳井教育長

教育委員

それでは、委員の任命について承認いただけますでしょうか。

=全員承認=

第4 その他

(2) 情報提供

○平成30年度島根県への重点要望議案について

柳井教育長

(1)の協議は時間がかかると思いますので、最後のところに回して情報提供を先にさせていただきます。

それでは、平成30年度島根県への重点要望議案につきまして事務局よりお願いします。

山本課長

教育委員会から島根県への重点要望ということで、教育総務課のほうから2つ、学校教育課と社会教育課の連名で1つ提出をする予定しております。

まず、教育総務課でございますが、1つ目が、公立学校施設の空調設備に対する財政支援を国に働きかけてほしいということでございます。

空調設備につきましては、本市におきましても平成30年度から計画的に、最短で4年をかけて市内全小・中学校の未設置のところに設置をしていこうということで動き出したところでございます。非常に厳しい財政状況の中で、国の財政支援というものは大変重要でございますので、強く訴えていきたいと思います。

国レベルでは設置率が41.7%、島根県では28.4%ということで非常に下回っているという状況の中で、益田市におきましては、小・中学校における普通教室、特別教室の全保有の部屋の数が565室、このうち設置しているのが48室、設置率が8.5%ということで、非常に下回っているというような状況にございます。

近年、夏季期間の猛暑が続くといった状況がありますが、そのような中で、学校における学習指導要領も変わり、夏季に授業数も増えてくるような動きもあります。そのため学校への空調設置は重要であり、財政支援について県を通して国に強く働きかけてほしいと思っております。

次に、学校施設の耐震化についてです。これまで計画的に進めておりますが、耐震の補強工事は平成28年度で全て完了し、残りの耐震化は、改築工事のみとなっております。これに対する国の財政的な支援を強く要望していきたいと考えております。

次に派遣指導主事・派遣社会教育主事の財政支援の強化について、今まで派遣指導主事についての市負担率2分の1を軽減してほしいということを要望してきておりましたが、派遣社会教育主事についても併せて負担軽減を要望していきたいと思います。

それから資料の修正があります。平成30年度の状況の表ですが「ひとつづくり推進監（中学校校長）1名、島根県教育委員会事務局職員」という1行が抜けておりました。提出用については修正しております。

この点について何かお聞きしたいことがありましたらお願ひします。

教育総務課で空調設備設置について働きかけをしてくださり、念願のことがやっと動き始めたということでとても喜んでおります。

それに関わって教室だけでなく、子どもたちが多く集まる図書館、教室に入り難い子どもが図書館で過ごせるよう、図書館も教室と同様大事な場所と思っておりますので、教室と併せて設置を考えていきたいと思います。

空調設備の要望につきましてお尋ねしたいことがございます。これは冷房のみなのか、冷暖房を含めたものなのかということです。このあたりはどのようにお考えなのかお聞かせいただければと思います。

特に夏というところで冷房を挙げておりますが、学校施設環境改善交付金という制度がございまして、この中の大規模改造事業の中で冷暖房についても原則3分の1が補助対象になっており、この3分の1をさらに拡充してほしいということで要望をしているところですが、暖房の設置についても当然交付金対象ということでございますので、冷房と併せて考えていきたいと思っております。しかし、暖房を稼働させることにより電気代の心配が出てきます。夏場と比較して、冬場は0度を25度ぐらいまで上げないといけないといったところで電気代も高くなること

大畠推進監

柳井教育長
舟橋委員

中野委員

山本課長

が見込まれますので、その辺りも考えながら進めていかないといけないと思っております。

中野委員

ストーブでもいいとは思いますが、教室の中で、ストーブの近くに席がある児童生徒は暖かく、ストーブから離れているところに席がある場合はそうでない児童生徒もいると思います。ある程度満遍なく環境整備を考えましたら、みんなが平等に、席によって温度が変わることがなく過ごせるような教室づくりがいいのではないかなどいうふうに感じましたので質問をさせていただきました。

柳井教育長

教育委員 =全員了承=

○平成30年度人権・同和問題研修会について

柳井教育長 続きまして、平成30年度人権・同和問題研修会についてお願ひします。

和田主査

人権センターでは今年度も研修会、講演会等で人権についての啓発活動を進めていきたいと考えております。

今年度は、夏季に3つのテーマをもって講演会を行いたいと考えております。1つ目は同和問題についてのテーマ、2つ目はインターネットと人権、3つ目はLGBTの問題についてでございます。ご存じの方もおられるかと思いますが、LGBTとは、Lがレズビアン、女性同性愛者、Gがゲイ、男性同性愛者、Bがバイセクシャル、両性愛者、Tがトランスジェンダーということで性と心が一致していない方ということです。これらをテーマとして7月から8月ぐらいにかけて実施したいと考えております。今後詳細なことが決まりましたら情報提供等をさせていただきますので、ご参加等も含めてよろしくお願ひします。

柳井教育長

教育委員 =全員了承=

○旧美濃地家住宅の国登録有形文化財（建造物）の登録について

柳井教育長 それでは続きまして、旧美濃地家住宅の国登録有形文化財（建造物）の登録についてお願ひします。

木原課長

旧美濃地家住宅の国の登録有形文化財の登録に関しては、昨年1月27日の定例教育委員会において、国の審議会でその旨の答申をされたという形で報告をさせていただきました。その後、文化庁の方の手続きが進みまして、このたび3月27日の官報でもって正式に告示され決定をしましたのでご報告いたします。

柳井教育長

教育委員 =全員了承=

○史跡スクモ塚古墳の発掘調査について

柳井教育長 それでは続きまして、史跡スクモ塚古墳の発掘調査についてお願ひします。

木原課長 このスクモ塚古墳は、昭和16年12月に円墳として国指定をされております。資料1ページの図の少しグレーがかかった範囲が国指定の範囲になっております。古墳の形の一つとして、造出し円墳と、四角い方墳形の古墳状のものがくっついているという考え方と、前方後円墳の可能性もあるのではないかという考え方がありまして、この2つの評価は未だ決着がしておりませんが、5世紀中頃につくられた益田の大型古墳ということで古くからよく知られてきた古墳でございます。

史跡指定以来76年間発掘調査は全く行われておりませんでしたが、この2、3年の間に古墳に隣接したところで個人住宅の建て替えや、道路整備、太陽光発電のソーラーパネルの設置などの開発計画が持ち上がっておりまます。個人住宅の2カ所につきましては試掘調査をして、直接古墳に関わる痕跡が見つかりませんでしたので、家の建て替えが行われました。

このたび調査をするきっかけとなりましたのが、左手にあります市道下本郷久城線を拡幅するという工事がありまして、この3月に資料3ページに載せております第4図の上部分にあたる箇所で、2×20メートルという調査区を図示しておりますけども、この部分の調査に入りました。古墳側の史跡指定地内の古墳の裾部分の発掘を行いまして、埴輪が大体60センチ間隔ぐらいで並んでおり、それが丸い古墳の部分を全周しているだろうということが分かりました。

それから、道路側部分については、今週の月曜日に発掘を行いまして、本日、埋め戻しをしているという状況です。昨日、奈良国立文化財研究所の方、それから文化庁、島根県の方に状況を現地でご説明したところですが、古墳の周囲には、周りを取り巻く周濠と言いますが、お堀がめぐっていたのではないかというふうに推定をされておりましたが、今回の試掘調査、また昨年、一昨年の試掘調査によって、こういう周濠は備えてなかつたのではないかということが分かりました。

それからこの古墳の地下には非常に良質な粘土があります。この粘土を利用して、江戸時代の終わりから明治以降この一帯では、いわゆる赤瓦を焼いたり石見焼の丸いものを焼いたりしていたというところは、この古墳の裾あたりまで粘土をとった痕跡が今回の調査でも確認をされております。

そのようなことも確認しながら、今後古墳の周囲での範囲確認調査と、それから古墳の形の解明のための調査を継続しながら周辺の開発事業と

それから古墳自体の適切な保護に備えていきたいと考えております。

柳井教育長 ただいま説明がありましたが、このスクモ塚古墳について何かお聞きしたいことがありましたらお願いします。

中野委員 先ほど埴輪の出土があったということもありましたが、市民の方への情報提供についてホームページに掲載されたり、あるいはメディア等も活用しながら、より関心を高めていただくというような取り組みなどはお考えでしょうか。

木原課長 先ほども説明させていただきましたが、古墳の裾部分の調査をして、埴輪が非常にいい状態で見つかったわけですけども、その成果につきましては、3月24日に現地説明会をさせていただきました。また、それ以前に報道関係にも現地でいろいろな発掘調査について説明しまして、ほぼ全紙に現地説明会の日程も併せて掲載をしていただきました。それからNHKでも約120人の方が現地説明会に来られたということで取り上げていただきました。

また、今回の道路部分の調査については、期間が短いため説明会は困難という判断をしました。代わりとしまして、ホームページ等で分かり易く全体の調査の成果を公開していきたいと考えております。

舟橋委員 現地説明会には私たちも参加させていただいて、熱心な方がたくさんおられるということを感じました。外部、市外からもたくさんおいでになっておられたということで、広報活動もされているということが分かりました。充実した調査をしていただきたいと願っております。

柳井教育長 それでは、この件に関してよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○平成30年5月学校給食献立について

柳井教育長 それでは平成30年5月学校給食献立についてお願いします。

山本課長 高津学校給食センターの献立ですが、5月の献立のテーマは「バランスのよい食事をとろう」でございます。

それでは、主な献立ということで紹介をさせていただきたいと思います。

まず、7日ですが子どもの日の献立になっております。内容は、春雨の中華あえ、蒸しシューマイ、麻婆豆腐、男の子の健やかな成長と幸せを願うということから柏餅を提供していこうと考えております。

続きまして8日でございますが、益田・鹿足統一献立でございます。成長期に必要な栄養素、カルシウムをしっかりととっていただきたいということで、ししやもの磯辺揚げ、ミルクおから、カルシウムたっぷり汁という献立を計画しております。

また、17日は、保小中連携献立、21日は益田食育の日になって

おります。益田食育の日は、特にカルシウムあるいは食物繊維が多く、またおなかの調子を整えてくれるということで、益田産の切干大根を使った中華炒めをメニューに取り入れております。

献立表の裏面は、「カルシウムをしっかりとろう」というテーマで書いておりまして、カルシウムについての説明、またカルシウムの多い食べ物の紹介、右下には切干大根の中華炒めの調理方法を紹介しております。

また、今まで美都調理場についてはお知らせしておりませんでしたが、今回から美都分につきましても紹介しようということで、献立表を資料としてお渡しさせていただきました。大半は高津学校給食センターと同じ内容になっておりますが、メニューの提供日が違ったりですとか、またご承知のように、美都は地産地消に力を入れておりますし、地元食材の調達状況によってはメニューが若干違っております。

5月の献立では、5月10日に柏餅を提供することにしておりますが、これは地元美都の商店でつくられた柏餅を提供することとなっております。5月11日の青りんごゼリー、18日のマカロニグラタンも美都で手づくりされたものを提供することとしておりますし、給食で使用する野菜はできるだけ美都で取れたものを提供しております。美都の調理場の給食数は200食程度ですので、地元の食材を使用しやすくなっているというところでございます。

美都の献立を見て、地域の食材を使用していて良いと思いました。高津給食センターでは、地域の人たちが行くことができる試食会というものがあると聞いておりますが、美都の方はどのようになっていますか。

対応することはできます。

どちらに申込みをしたら良いでしょうか。

食器の準備等がございますので、事前に美都調理場に要望をいただければと思います。

昨年度は難しいということでお聞きしておりましたが、対応できるようになったのであれば、多くの方に知っていただきたいと思いますので、情報提供をよろしくお願ひします。

4月の学校給食が今日で終わりとなります。残食量の問題について教えてください。学校給食会でも議論しながら残食量の減少に努めておられると思いますが、どのような改善等々をなされているのでしょうか。また現状について聞かせていただきたいと思います。

残食量はそれぞれの配達した食缶ごとに毎日データを取っております。高津給食センターでの話になりますが、主食のご飯でいうと、白ご飯の時は100キロぐらい、白ご飯ではなくカレーやわかめご飯などの日は100キロも残っていないというところが現状となっております。栄養

舟橋委員

山本課長

舟橋委員

藤本補佐

舟橋委員

中野委員

藤本補佐

士も学校行事、気温等の時期など過去1年間のデータを分析しながら献立を考えてはおりますが、具体的に目に見えて減っているということはないように思います。

中野委員 なるべく残食量というのは減らしていかないといけないと思っておりますので、方法について具体的に考えていかないといけないと思います。ご飯が食べやすくなるような食品の提供なども考えていかないと残食量の減少というのはできないのかなと思います。

山本課長 昨日、献立小委員会がございました、そこで残食の話がありました。通常、ご飯は150キロぐらい余って来るというふうに聞いておりましたが、ここ3月、4月におきましては、100キロ未満ということで減ってきてているというような状況です。ただ、季節的なことがあります。今後また暖かくなつて、夏に入ると食欲が減退して残食が増えてくる可能性はございます。数字的なことは把握しておりますので、またの機会にご提供したいと思っております。

中野委員 ありがとうございました。

柳井教育長 よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

(1) 協議

○平成30年度（平成29年度事業分）益田市教育委員会点検・評価に係る自己評価について

柳井教育長 それでは平成30年度（29年度事業分）益田市教育委員会点検・評価に係る自己評価について事務局よりお願ひします。

山本課長 まずスケジュールをご覧ください。この点検評価につきましては、法律の改正に伴つて、教育委員会の事務管理、執行について点検評価を行い、その結果を議会に提出して公表することになりました。

益田市では、益田市の教育に関する大綱と毎年度作成する教育行政の取り組み方針を掲げておりますが、それぞれに重点項目、主要施策があります。29年度におきましては6項目を示しておりますが、この項目についての点検評価を行い、議会に提出して公表することになっております。

それでは、4月27日、本日でございますが、重点項目ごとに関係する課が自己評価したものをつけ合わせて作ったものをお配りいたしました。今のところ各課での評価となつておりますが、これを教育委員会全体の自己評価になるよう調整いたします。

本日お渡しました評価シートですが、5月の定例教育委員会までにこの評価シートに基づいて、総括的な評価を加えてまいります。それを加えたものをもつて5月の定例教育委員会で教育委員会としての評価報告

書に固めていくということを考えております。

次に6月から7月に教育委員会として固めた評価報告書を外部評価委員会のほうへお諮りをするという流れでございます。外部評価委員会は2回開催する予定でございますが、1回目では、点検評価の結果について説明をし、外部評価委員に意見をもらう。2回目で、各委員からこの外部評価に対する意見をA4用紙1枚程度にまとめていただきます。

議会前の8月の定例教育委員会では外部評価の意見をいただいたものを確認をしていただいて、市役所庁内の機関決定の場であります政策調整会議で報告をし、9月の定例市議会において報告をし、最終的に10月にホームページで公表する流れとなっております。

それでは、評価シートの内容でございます。

1ページのほうをご覧いただきますと、重点項目として、学力育成を支えるための施策の推進というものがございますが、これは大綱及び教育行政の取り組み方針に関係した一つの重点項目でございます。

この重点項目を推進するために、①から⑤の方針がありますが、この方針に沿ってそれぞれの評価項目を設けて評価対象としております。評価対象に対して、それぞれ目標、実績、達成度があり、この事業を行う上での事業のねらい、事業の成果を記述して評価を行っております。

また、5ページには、1つ目の重点項目、学力育成を支えるための施策の推進にかかる全体的な事業の評価というものを載せております。ここにある事業評価には、妥当性から総合評価まで、それぞれ評価を入れ、コメントを加えて、全体的な事業成果を設けております。このような流れでその他の重点項目についても同様に作成しております。

本日のところはお気づきの点があろうかと思いますので、お聞かせいただきたいと思います。5月の定例教育委員会では教育委員会の自己評価を固めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

柳井教育長
村上委員

それでは説明がありましたが意見等がありましたらお願ひいたします。各課が出しておられますが、達成度のところが100%を軸にしているところと、109%とか100を超えるところがまちまちであるように思います。その辺のところを最大が100なのか、パーセンテージに合わせて200%なのかというところを統一されたほうが分かり易いと思いました。また、A、B、Cのそれぞれの評価基準、評価の考え方などをお示しいただくと照らし合わせて見ることができるのでないかと思いました。

山本課長

評価シートの最終的なものには、A、B、Cの評価の要領がありますが、今回は載せておらずに申し訳ありませんでした。次回は載せたものをお渡しさせていただきます。また、達成度については、目標、特に数値的なもの目標にすると、どうしても100%を超えることが出てき

たりします。その辺については調整をいたします。

村上委員

舟橋委員

私も同様の考え方で、やっぱり100%以上のものというのは、目標設定が果たしてそれで良かったのかと思います。100%が150%になっても良いとは思いますが、次の課題がきちんと書いてあること、継続して達成できていることは目標を変えないといけないし、もっとすべきことが出てくるはずですので、その辺りをしっかりと見通していくかないといけないと思います。

主に100%を超えているものには、何人ぐらいとか、何回とかというようなものが多いように思いますが、それだけの目標ではないと思います。特に学校関係などは、校数が決まっていたり、職員数が決まっていますので、そこにパーセンテージだけを持っていくと課題が残るのではないかなど。それでも100%になれば予定どおりになつたということですが、今後の課題をきちんと示していくことが必要ではないかと思います。

また、昨年度も評価委員の方に評価してもらっているわけですが、評価委員の意見をどのように活用し、活かしているのかを説明していただければと思います。

山本課長

外部評価委員からのご指摘の中に、これまでの評価項目として挙げているもので、毎年度評価が100%を超えているものは、次の違う形での目標設定にしたほうが良いというご指摘は受けているところでございます。その他にも、例えば重点項目の2の教育と子育ての支援の一体化については、取り組み方針として親力向上の推進を掲げており、子育ての各世代向けの講演会、研修会などの機会を設けていますが、親の興味の差によって親力の差が開いてきているというご指摘がございました。いわゆる大人の資質の向上が必要ではないかといったご指摘を受けております。さまざまご意見が出されておりますが、前年度を踏まえて進めていきたいと思っております。

大畠推進監

委員の意見として、前年度の評価を年度の中盤以降に実施するということが一番の問題点であるというご指摘がありました。ですので、この度は、3月末までの実績を速やかに自己評価して、次年度、今年度に活かせるように改善してきているところが一番評価できるのではないかと思います。まだまだ十分ではないと思いますがご理解をよろしくお願ひします。

舟橋委員

その点は本当にすばらしいと思います。そしてとても充実した書き方に努めておられるということも重々感じております。これからも大変でしょうけども、こうして早く出されることによって、これから先に繋がっていくけるということは本当に評価したいと思います。

- 柳井教育長 このような反省に基づいて、30年度の目標も立てております。教育総務課長を中心にして、教育委員会も早く目標を立てて頑張っていこうという姿勢を見せておりますので、よろしくご理解をお願いします。
- 村上委員 例えばですが、この事務事業を行うことによって、それぞれ学校の現場にいる教職員の先生方の満足度といいますか、やりがい、モチベーションというようなものに対して、どのように行政の施策が反映されていっているのか、あるいは子どもや保護者がどのようにそれを受けとめて評価しておられるのかというようなことが分かる部分というのがどこかにあるのでしょうか。
- 山本課長 今おっしゃっていることは非常に重要なところだと思いますが、実際のところ、評価の中にはそこだけを捉えて評価しているものはありません。
- 大畠推進監 校校は保護者、それから第三者、市を含めた学校評価を定期的に出しております。その中に市がやっている施策に対する反映であったり、それをどう子供たちが感じ評価していくか、保護者がどう評価しているのかということを必ず提出することになっております。要するに、学校の評価が低いということは、教育委員会の施策が届いていなかったり、指導が足りなかつたというところであろうと思います。全ての学校は学校評価を提出しておりますので、これについてはここ以外でしっかりと考えるべきだと思っております。それを踏まえて、教育行政としてのチェックの部分との連動が今後の課題と思いますが、基本的に学校の先生方を含めると、学校評価というものがかなりの満足度の指標になろうかと思っております。
- 渡辺委員 児童生徒、学校に対しては教育委員会行政が多くの係わりを持っておりますが、人権センターの活動ですとか、公民館活動などの評価というものが評価シートの中にはあまり挙がってきていないとと思います。市民の多くは成人している方が多いですから、成人に対しての教育行政の施策についての評価もあると思うのですがいかがでしょうか。
- 大畠推進監 おっしゃるとおりだと思っております。しかし、大綱というのを立ち上げておりますし、30年度についてはほぼ目標設定が終わっておりますので、難しいかと思います。しかし、事務局内部でも今まで良いのだろうかという点は議論しておりますので、31年に向けて今のご意見を反映すべきだと思います。
- 柳井教育長 文化財課の方はいかがでしょうか。
- 木原課長 効果、成果について何をもって計るかというところが難しいところになりますが、文化財課の目標設定もまだ狙うべきところに到達していないと思っており、その辺も意識していきたいと思います。
- 舟橋委員 私が最初に教育委員になった時のこの評価は、特に事業成果のところ

があまり書かれてありませんでした。しかし、今はこうして分かるように書いていただいており、前よりもたくさんいろんな方面から考えてコメントが書かれているというふうに思いました。

しかし、最後の表現の仕方ですが、こんなことが何パーセントでどうだったという書き方だと、訴える力が弱い、実態把握をしていないという受け止め方をしてしまいます。ですので、こういう意見が多くてこのようにつながったとか、行ったことを正しく伝えていけるようプラスアルファしていけばより一層良いものになると思います。

柳井教育長

それでは、いろいろな意見をいただきましたことをこれから活かしていきたいと思いますが、他にはよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

(3) その他

○平成29年度未来を担うひとづくりに係る取組の報告について

檜垣コーディネーター

今、益田市が一昨年度から始めておりますライフキャリア教育の取り組みについて、昨年度の最終報告を10分程度させていただきます。

まず、前のスクリーンに出ておりますデータを見てください。

昨年度カタリ場を実施した12中学、高校の生徒476名からアンケートをとった結果、皆さんにはこのような大人になりたいという理想像はありますかと聞いたところ、476人中259名、約55%、半分以上の人人がこんな大人になりたいという理想はないと答えました。

続きまして、益田市には魅力的な大人がいると思いますかと聞いたところ、そう思うと答えた人が46%しかいなかつたんです。これは裏返すと、益田の半分以上の中学、高校生が益田には魅力的な大人がいないと思っている現状があるということが今回のアンケート調査で分かりました。

そこで、今市長はひとづくりという名のもとで、もっと益田には魅力的な大人がいるんだ、その大人がどんな思いを持って日々生活しているのかについて知る機会を作ろうと、ライフキャリア教育という名のもとでいろいろな活動を行っております。なかなかライフキャリア教育という言葉が抽象的で分からぬところもありますので、一昨年度から益田市教育委員会の方でカタリ場という事業と、新職場体験という事業を象徴的なプログラムとして作っております。これまでカタリ場の動画については何回か皆さんにお見せできたと思いますが、今回、新しく新職場体験の動画ができましたので、その新職場体験の動画を見ていただきたいと思います。

=動画視聴=

・ 檜垣コーディネーター

職場体験の動画は以上となります。

大きくこれまでの職場体験と違うところは、職場体験中の内容を少し改変いたしました。それは、今まででは仕事を体験するというのが一番の大きな目標でしたが、今回の職場体験では、その職場体験の最後の成果として、働いた職場で出会った大人に成りきって、自分はこういうことを大切にしていますというものを自分自身が書くということをしていただきました。そのためには、ただ仕事を体験するだけではなくて、普段どんなことを大切にしていますか、今まで大変だったことは何ですかと聞かないと書けません。このように、自然と対話が行われるように意図して作っており、今回、全生徒に写真を撮ってもらう、その人の生き方を実際に記事にしてもらう体験をしていただきました。今年度は、全中学校で実施できるように調整中でございます。

続きまして、カタリ場について報告いたします。

カタリ場は、一昨年度は3校での実施でしたが、昨年は合計22校、小学校が10校、中学校11校、高校が1校で実施させていただきました。そのカタリ場の紹介動画も作りましたので、ご覧下さい。

=動画視聴=

・ 檜垣コーディネーター

今回のカタリ場は、昨年度から大きく変わったところがいくつかあります。

小野、中西、西南中では、中野委員さんにも熱い思いを語っていましたが、その熱い思いが高校生に伝わって、今から益田市の外に出る高校3年生たちが最後に自分のこれまでの18年間の思いを語りたいということで40名の高校生が集まって、小学校6年生にカタリ場を行いました。一昨年度は1校で吉田小学校に行きましたが、それがさらに憧れの連鎖を生みまして、昨年度はそのカタリ場を受けた小学校6年生が中学生になり、中学1年生になって、自ら小学生にカタリ場をしたいと、母校の小学校にカタリ場をするということもありました。そして、それを見ていた校長先生が、私たちも是非語るということをやろうということで、おそらく全国初、小学校、中学校の校長会でカタリ場というものを実施させていただきました。一昨年度と大きく変化したのが、繋ぐということでいろいろ憧れの連鎖が生まれてどんどん語るというモデルができたのではないかと思います。

カタリ場と新職場体験を実施した結果、たくさんの成果はありますが、一番大きな成果は益田市の大人のイメージが良くなつたということです。カタリ場を実施後に480人中419人が、約90%の人が益田市の大人はこんな素敵な人がいるんだというふうに思ったという結果が出てお

ります。そして、益田市には魅力的な大人が多い。それがもともとは46%だったのが、最後には390人、82%の中学生と高校生がこのように思うというような結果になっております。

この活動はひとつづくりということで、最終的には益田に住みたいと思う人が増えてほしいという思いがありますが、その成果につきましては、一度は外に出たとしても益田で暮らしたいと言っていた人が36%しかいませんでしたが、それが50%まで増えています。つまり、このカタリ場であったり新職場体験のように、熱い思いを持った子どもたちに持続的に火を灯し続けることによって、益田に帰ってくる子どもたちが3割から5割にまで増えてくるのではないかなと思っています。

私たちがやっている社会教育の活動というのは、どうしても一過性のものになってきますが、この一過性のものをどんどん日常的なものにしていくことによって、この成果はよりリアルな、最終的に人が帰ってくる循環に繋がるのではないかなと思っています。

来年度以降も、ますますこのような活動を教育委員会一丸となって活動を続けていきたいと思います。

カタリ場を受けた子どもたちの心が動いてきているのは、いろいろな統計から分かりました。この結果は、いつ頃から効果としてあらわれそうですか。

このライフキャリア教育と呼ばれるものが始まったのが昨年度でして、カタリ場などの活動を受けて高校を卒業した学生がまだ大学生であったり、益田では高等看護学校で学んでいたりすると思います。その最終的な成果が分かってくるのは、益田へ帰ってくる人数がどれだけ増えてきたかというところだと思っています。彼らが大学を卒業した後にどれだけ数値が伸びているかということが分かるのは、今から2年後、3年後になってくるのではないかなと思います。

昨年度から新たに、本当にその結果が出るか分かるように新たにもう一つ取り組みを始めました。それは何かと言うと、一度益田の外に出た後に帰ってくるタイミングは成人式なんです。成人式はほとんどの人が帰ってきます。ですので、成人式の時にカタリ場と同じようなアンケートを実施しております。その成人式のアンケートの結果は、今のところライフキャリア教育を受けていない子たちが中心なので大変低いですけれども、来年度以降は結果に出てくるのではないかなと思います。

来年度以降は、成人式の結果も含めてご報告できればと思います。

ある程度の効果がいつ頃かという目標を定めて、それに向かっていろいろな学習や実践をしながら進めていく形をこれからはしていかないといけない。ただ知るだけ、話すだけで終わってはいけないと思います。

それから、帰りたいけれども帰るところがないというような状況がな

渡辺委員

橋垣コーディネーター

渡辺委員

いように、今いる者が積極的に一緒になって考えていくということを一体的に進めてほしいと思います。

柳井教育長 それではよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

柳井教育長 それでは、次回の日程を決めたいと思います。次回は5月29日の13時30分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願ひいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 14時55分=